

# 会 議 録

## 1 会議名

第1回上越市子ども・子育て支援総合計画策定委員会

## 2 議題（全て公開）

(1) 委嘱状交付

(2) あいさつ

(3) 自己紹介

(4) 委員長、副委員長の選任

(5) 議事

ア 子ども・子育て支援総合計画策定委員会について

イ 子ども・子育て支援総合計画等について

ウ 子どもの生活実態に関するアンケート調査の結果について

エ 子ども・子育て支援総合計画の骨子の考え方について

オ その他

・上越市保育園の再配置等に係る計画（第3期）について

## 3 開催日時

平成31年4月25日（木）午前10時から11時50分

## 4 開催場所

上越市市民プラザ第四会議室

## 5 傍聴人の数

なし

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：梅野委員長、佐藤（文）委員、椿委員、柳澤委員、佐藤（洋）委員、  
平間委員、中村委員、福田委員、中條委員、飯塚委員、阿部委員、  
秦委員、白石委員、仲田委員、森岡委員、王委員、柳委員、星野委員

・関係者：中戸賢裕

・事務局：こども課 宮崎課長、小林副課長、八木係長、曾根主任、杉田主任、

武藤主事

- ・関係課：福祉課 星野副課長、大滝副課長  
保育課 坂井課長、小山副課長、丸山係長  
すこやかなくらし包括支援センター 町村保育士長

## 8 議事内容

(1) 委嘱状交付

(2) あいさつ

(3) 自己紹介

(4) 委員長、副委員長の選任

- ・委員長に梅野委員、副委員長に平澤委員が選任された。

(5) 議事

ア 子ども・子育て支援総合計画策定委員会について

八木係長 : 資料1により説明

梅野委員長 : 計画策定のみならず、子ども・子育て会議や子どもの権利委員会での議題を含めて、本委員会で総合的に意見交換していくという説明であった。他に意見がなければ議題2に進んでよいか。

各委員 : 異議なし

イ 子ども・子育て支援総合計画等について

宮崎課長 : 資料2により説明

仲田委員 : 策定方針の資料にある「子ども・子育て支援総合計画とは」で「子どもの健やかな育ちに向けた施策を体系的に整理し」と記載がある。それ以外は全て「子育て」となっている。「育ち」と「子育て」の言葉の意味を明確にしておく必要があると考える。

宮崎課長 : 第2回委員会で骨子の案等を示す予定である。その際に、今のご意見を検討材料として協議する。

梅野委員長 : 言葉一つでもそれぞれ捉える理解が違う。言葉を大事にするという意味でも、次回以降の検討材料として、話題になっていけば良いと考える。他に意見がなければ議題3に進んでよいか。

各委員 : 異議なし

ウ 子どもの生活実態に関するアンケート調査の結果について

杉田主任 : 資料3により説明

阿部委員 : 地域ごと、あるいは中学校区、小学校区ごとの傾向や課題を把握するアンケートであったか。地域ごと、学校区ごとの課題を把握する予定はあるか。

宮崎課長 : 市全体の傾向や課題を把握するために行ったアンケートであり、その結果を参考に計画策定を進めたい。地域ごと、学校区ごとの抽出は予定していない。

大山部長 : 教育委員会で学校ごとの課題把握に努めている。また、学校や青少年育成会議等が連携して、地域で子どもを育てる取組を行っている。今後、教育委員会部局等と意見交換しながら計画を策定したいと考えている。

中村委員 : 5 ページにある相談相手について、困窮層で相談する人がいないとする回答が一番多い。学校でも様々な相談に対応している。もっと困窮層の人たちが相談できる場があるとよい。もう1点、6 ページにある「家は心がほっとする場所か」について、質問の意図を知りたい。

宮崎課長 : 子どもの居場所を考えるにあたり、子どもに必要な場所は何かを導く材料として、また、親子関係や家庭内の問題などを踏まえた子どもの率直な気持ちを把握するために質問した。

中條委員 : 今後議論していくうえで、困窮層に該当するひとり親世帯の数の把握が必要だと考える。また、子ども自身の考え方について、子どもの自己肯定感に関わる設問であるが、一般層と困窮層において確かに大きな相違は見られないが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答する割合が困窮層に該当する子どものほうが多い。子どもの自己肯定感を育むことを考えた時に、家庭の経済的状況が何らかの影響を与えていると思うがどうか。

宮崎課長 : 今年1月に開催した子ども・子育て会議、子どもの権利委員会

の合同会議時に、ひとり親世帯と困窮層について説明したところである。その後、アンケートに回答した世帯の状況を整理し、単純集計版を改めて作成したので、本日配布した。新しく委員になられた方には別途お渡ししたいと考えている。

梅野委員長：私の記憶では、ひとり親世帯と困窮層の因果関係については、今後慎重に検討する必要があるのではないかとの意見があった。合同会議で配られた資料はあくまで統計的な資料という扱いであったかと思う。2つ目の質問の自分の将来に明るい希望を持てるかについてどう評価しているのか。

八木係長：中條委員が言われたとおり困窮層のほうが少しずつパーセントが高くなっている。庁内関係課と協議をしながら計画にどう位置づけられるか検討していきたい。

梅野委員長：議題4に進んでよいか。

各委員：異議なし

#### エ 子ども・子育て支援総合計画の骨子の考え方について

宮崎課長：資料4により説明

柳委員：主な課題の中に、これまでの会議の中で問題提起してきた内容が含まれていることに感謝している。5ページでは、困窮層のパート就労の割合が高いことが示されている。正社員として働くため、またはひとり親世帯の人が経済的自立を図るために一歩踏み出そうとしたときに、小学生の預かりの場がなくて困っているという声が聞こえる。小学生の預かり事業を行うことによって恩恵を受ける家庭は多いと思う。

星野委員：私事ですが、うちの娘が今春小学校に入学した。上越市から黄色い安全帽子が贈呈されたが、帽子の形状が男女別であった。上越市は人権に関する意識啓発、男女共同参画の取組を活発に行っているが、安全帽子の形状を男女別にするものの是非について、市役所内部で議論はあったのか。細かいことではあるが、社会は多様性に満ちているので、市役所内部で議論していただ

きたい。

仲田委員 : 主な課題の3番目に「保育園の途中入園が難しい」とあるが、別冊の保育園の再配置計画等では、市全体としては定員に対して求園者数が少ないとなっている。この点について、次回からの議論のために分析してほしい。また、7番目の「核家族化の進行」、11番目の「日曜・祝日の小学生の預かりの場がない」ことについてだが、アンケート結果要約版1ページ目の7(3)にある子どもの人数と世帯構造を見ると、核家族が三世代より子どもが3人以上の割合が約7ポイント高く、これが影響しているのか。また、要約版5ページ目の(2)保護者の状況にある就労状況や勤務形態、相談相手について、核家族と三世代の相関をみるとどうかなど、核家族の進行とあるいは日曜・祝日の小学生の預かり場がないの課題に対して、世帯構造との相関を分析したほうが議論が深まると思う。

王委員 : 社会で問題になっているネット中毒など、家庭の問題解決に向けては親教育が本当に大事だと思う。私たちは家庭教育を行っているが、影響範囲は限られる。親教育のイベントや活動を市が行ったらどうか。まずは親が教育を受けて、子どもを守る。子どもに教育する親が間違っているのは、正しく子どもを教育することはできないと思う。2点目として、今、虐待とかいじめの問題が発生したら把握することはできるが、問題発生前に解決する方法があれば良いと思う。3点目、私はこの2年間、高田公園を朝散歩をしているが、過去に不審者を警察に通報したり、公園にいる女兒に声をかけて不審者の注意喚起をしたことがある。また、学校に登校できない子たちの様子をどのように見守ってあげるのがよいか考えているところである。

中條委員 : これまでの取組から見えてきた主な課題に「少子化の進行」を明記したほうがよいと思う。また、母親が家事育児を一手に担って、疲れ果てている現状の背景にはワークライフバランスが実現できていないと考える。ワークライフバランスが実現でき

ていないことも盛り込んだほうがよいと思う。

飯塚委員 : 仲田委員が述べた世帯構造の分析について、子どもの授業の理解度、放課後の居場所などの関連性を調べたほうがよいと思う。地域で活動している者として、フォローのあり方を考えたい。

柳澤委員 : 私と子どもがアンケート対象者であった。要約版4ページの授業の理解度と塾や習い事の有無の関連性をどのように捉えたらよいのか。塾に行かなくても成績が良い子どもはおり、塾に行っていない場合もある。

梅野委員長 : 結果に対して様々な捉え方があると思う。今後、そういう内容を含めて議論していきたい。次の議題、その他に進んでよいか。

各委員 : 異議なし

#### オ 上越市保育園の再配置等に係る計画（第3期）について

坂井課長 : 別冊により説明

梅野委員長 : 質問等があれば受けたい。

各委員 : なし

梅野委員長 : その他、事務局から何かあるか。

こども課 : なし

梅野委員長 : 時代が変わっても子どもたち、保護者、子育てしている方は悩んでいる。1960年代の高等学校進学率は50～60%、当時の中学校の様子を資料や映像で見ると、給食費が払えない、修学旅行の小遣いが用立てることができないといった記録があった。それから60年経っても子どもたちの悩みというのは、姿を変えながら私たちの周りに消えることなくあるということを実感した。アンケート結果で、子どもたちは希望を持っていることがわかり、自分のことを一生懸命考えていることの表れだと思う。それに応えられるよう、私たちは本委員会で知恵を出し合い、結果を上申し、行政で活かしてもらおうことになると思う。本日は貴重な意見をありがとうございました。

9 問合せ先

健康福祉部こども課企画管理係

TEL : 025-526-5111 (内線 1728)

E-mail : [kodomo@city.joetsu.lg.jp](mailto:kodomo@city.joetsu.lg.jp)

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。